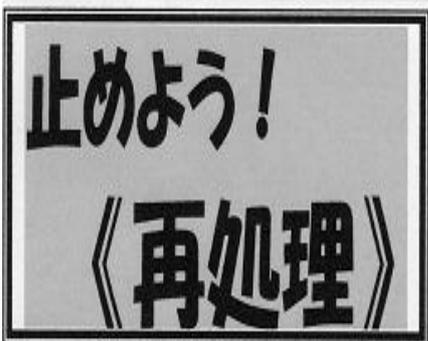


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**
(略称：三陸の海・岩手の会)

郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
<http://sanriku.my.coocan.jp/>



《天恵の海》

2014(平成26)年
6月2日
第141号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

放射能汚染物焼却について考える

学習交流会

**ごみ焼却炉から
漏れ出ている
放射性セシウム**



集会で講演する岩見億丈医師

←宮古市清掃センターの煙



福島原発から飛来した放射性物質で汚染された牧草などを燃やすことは放射能被害を拡大させ許されないとして、市民グループが五月一四日盛岡に集い講演会を開催し、学習と交流の会を行いました。

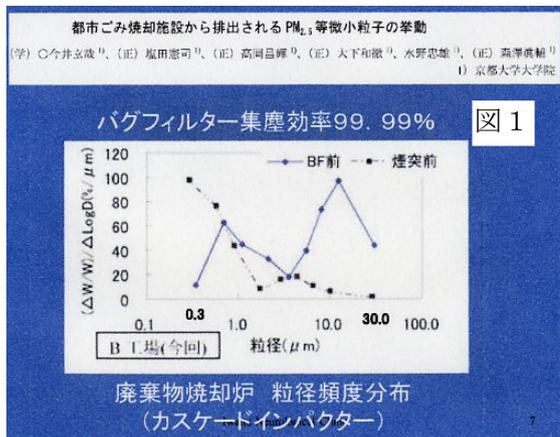
第一部、講演会は、環境ジャーナリスト青木泰氏が『世界の非常識―放射能汚染物の焼却―三陸の海・岩手の会の永田文夫氏が『一関で計画されている指定廃棄物の焼却問題はあまりに危険』そして宮古市内医師の岩見億丈氏が『ごみ焼却炉から漏れ出ている放射性セシウム』と題して行いました。第二部では、宮古、山田、矢巾、遠野、仙台、福島県浪江町などで放射能汚染と格闘している人たちからリアルな実情報告がありました。

今回の号では特に、宮古市での放射能汚染の実態を解明した岩見億丈医師の講演について報告します。
*当日の岩見氏の講演録は、当会ホームページに掲載予定。

**排ガスの濃度検査では
不正確**

岩見医師は、環境省が焼却処分の根拠としている「一般焼却炉で放射能汚染牧草や瓦礫を燃やしても放射性セシウムは九九%捕捉出来る」とする説は間違いであるという見解を述べました。国立環境研究所などの行った試験焼却では、「焼却炉排ガスの、バグフィルター入口濃度と出口濃度の差を計算すると、除去率99.52~99.99%」(同研究所セミナー資料二〇頁)としましたが、こ

バグフィルターで99%取れるか?



0.3ミクロン以下の粒径分布データは空白。実線がバグフィルター通過前。破線が通過後。

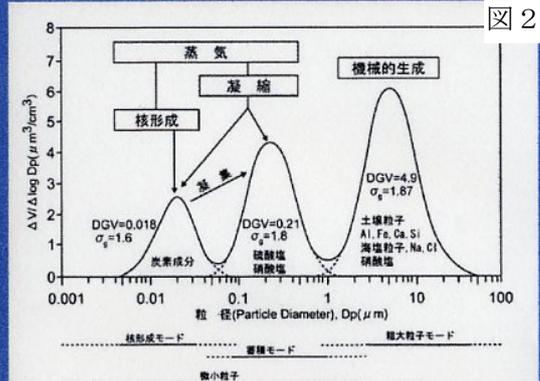
の方法では除去率を正しく測定出来ない」と批判しました。放射能を帯びた超微小粒子がバグフィルターで捕捉さ

れず環境に出てしまうことを見逃してしまうからです。ガス化した放射性セシウムは凝集し微粒子になる

焼却炉の中で八〇〇度もの高温でガス化した放射性セシウムは、急速に冷却され化合物として凝集し固体状になり、その他の燃焼物とともに微粒子となりま

す。環境研究所セミナー資料では、「飛灰の粒径平均は数十ミクロン」(十二頁図)としていますが、現在知られている「都市ごみ焼却施設からの微粒子の挙動」の粒径グラフ(図1)から見ても、実際はそれよりもずっと小さい粒径です。

大気中の微粒子粒径分布、3つの山

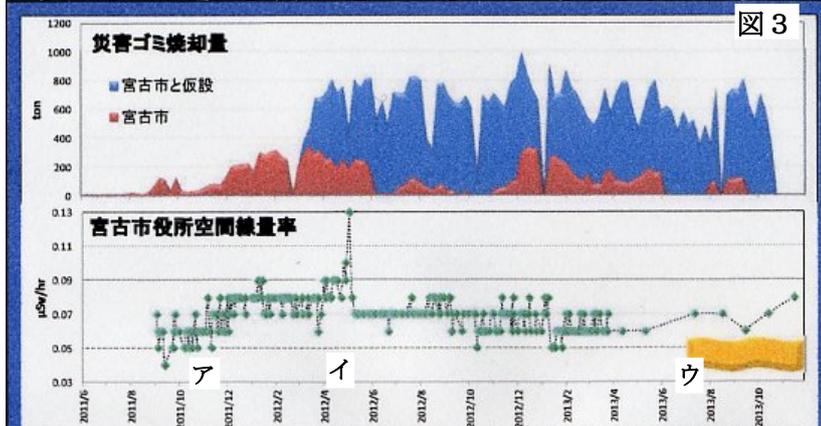


0.06ミクロン以下超微小粒子がもうひとつの山(群)をつくる。「微粒子状物質環境影響評価検討会報告書7-11頁」平成20年4月
<http://www.env.go.jp/air/report/h20-01/mat07.pdf>

環境研究所セミナー資料では0.3ミクロン以下の微粒子について言及がありません。フィルター通過後の排ガスの液体サンプリングでは「放射性セシウムは検出されない」としていますが、「検出が無い」のではなく「検出出来ない」ということです。

粒径分布に三つの山
 大気中の微粒子については、既に定説があります。アメリカの大気汚染学者の解明により学会の常識となつています。それは、0.005〜0.06ミクロン、0.06〜1ミクロン、1〜40ミクロンの三つの群として存在します。(図2)

宮古市役所の空間線量率



- 放射能汚染物焼却**
- ア、2011年11月 清掃センター災害瓦礫焼却増量
 - イ、2013年4月 仮設焼却炉飛灰最大放射能記録
 - ウ、2013年7月 清掃センター汚染物本焼却開始

放射能汚染牧草を混ぜたら放射線量が上昇
 宮古市清掃センターの飛灰の放射能濃度は、昨年七月に放射能汚染牧草を焼却することで上昇しています。これに伴い、焼却炉の風下にあたる数箇所で、空間放射線量率の値が上昇していることが、宮古市の公開データから判明しました。焼却炉の煤煙は、風向きの関係で宮古市役所や市営火葬場、藤原小学校、磯鶏保育園で

空間線量率を上昇させました。宮古市役所では、焼却炉に負荷される放射能が上がる度に、同時並行的に3度の線量率上昇がみられました。偶然とは考えられません。放射性超微小粒子が風に舞って運ばれたことにより増します。(図3)

超微小な放射性粒子が肺に吸い込まれる
 焼却によって飛散する放射性セシウムの超微小粒子(ホットパーティクル)が呼吸で吸い込

まれ、肺の奥に入って留まり、健康被害をもたらすことが心配です。焼却炉監視体制についても、排煙の放射能濃度をバグフィルター通過後に測定していますが、それでは監視になりません。「燃やす前の放射能総量」と「燃やした後

の灰の放射能総量」を測定し、収支がゼロ、すなわち全て回収したことを証明しなければ危険です。

科学的という言葉に騙されないために
 この講演で岩見医師は「科学の基本」というテーマに触れました。科学者は現実を観察し、観察データに基づくモデルを考える。そのモデルが現実を合理的に説明出来る時、しかも誰がやっても再現性が確認されたときに、科学的な知と認められます。今回の汚染牧草の焼却では超微小のホットパーティクルは捕捉出来ないというデータが出てきました。捕捉出来るという願望から出発してはいけません。そして、地動説を主張し、「中世の教会」から

お知らせ **報告学習会**
『岩手県の放射能汚染マップ』
 6月8日(日) 17時半～
 アイーナ501室
 報告 「空間線量の分布」「土壌中放射性セシウムマップ」
 主催 放射能問題市民交流会 など3団体

弾圧されたガリレオの時代を例に、現代は科学者の「学会」や政府の「機関」が当時のように教会的権威を振りかざす時代ではないかと指摘しました。(まとめ・尚)

00000

(編集子感想) 今、新聞などで、「美味しんぼ」の鼻血の話で持ちきりであるが、まさに「科学的思考」が試される。「ホットパーティクルが鼻に吸い込まれて悪さを

するのではないか」という仮説には説得力がある。それに対し、どこかの医療科学大学の学長が「強力な宇宙線にさらされる宇宙飛行士でさえ鼻血の話の聞かない。原発事故の影響とは考えられない」と述べた。しかし、これでは「モデル」がすり替えられているので説得力がない。